

議会広報広聴委員会記録

令和2年4月6日（月）
9時00分～12時01分
議会第1委員会室

- 【出席者】三浦委員長、西川副委員長、
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、
佐々木委員、澁谷委員
【事務局】下間次長、近重書記
【印刷業者】柏村印刷株式会社 山田次長

議題

1 はまだ議会だよりについて…………… 資料1

(1) 記事の校正について

頁	担当委員	記事
1～4	小川委員 野藤委員	表紙、写真、ポイント、議会注目記事、トピックス(3件)
5～8	川上委員 澁谷委員	賛否一覧・討論、会派代表質問（5会派）
9～12	芦谷委員 佐々木委員	個人一般質問（12名分）
13-16	村武委員 笹田委員	個人一般質問（4名分）、傍聴、議員定数に関するアンケート、表紙説明、3月定例会議日程、あとがき

正副委員長 議員定数に関する市民アンケート その他全体

(2) その他

2 議会報告会（地域井戸端会）の延期について

3 行政視察の延期について

4 その他

【次回委員会開催予定日】令和2年6月19日（金） 個人一般質問終了後

【議事の経過】

[09時 00分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始める。出席委員は9名で定足数に達している。本日は新型コロナウイルス感染症対策として窓も開けている。少々寒いがこの様な形で行う配慮をさせていただいた。ご理解とご協力をお願いする。

本日の議題4点を進めていきたい。

1. はまだ議会だよりについて

(1) 記事の校正について

(2) その他

三浦委員長 事務局。

近重書記 各ページの担当はレジュメのとおり。川上委員が欠席のため澁谷委員は一人でチェックをお願いする。

補足だが、14ページに掲載した松原小学校の児童の感想について、担任の先生から訂正案をいただいたので、そちらも参考にさせていただきたい。

また追加で1つ、議員定数に関する市民アンケートを広報はまだに挟もうというお話が、議員定数等議会改革推進特別委員会であったので、その案をフォルダに追加している。それについては西川副委員長がご存知なので中心に見ていただければと思う。

あと、私が事前確認したものがいくらかあるので、そちらも参考にさせていただきたい。

三浦委員長 では事務局に割り当ててもらったページ担当で、10分ほどチェックをお願いする。

(以下、校正作業)

澁谷委員 最初の部分、議員定数特別委員会がすごく大きくなっている。

近重書記 確かに、この上は落とさないといけない。

澁谷委員 議員定数特別委員会は下のほうに少しあれば良いだけ。これがメインになるのは。

近重書記 取っても良いか。これは私の発注が誤っていた。

佐々木委員 何が違うのか。

近重書記 質問の項目がなくなったり、提出方法も追加した。

佐々木委員	アンケートか。
笹田委員	議会報告会がなくなったから。
澁谷委員	もうひとつ気になったのは、最初の議会に必要な議員数の考え方の2番目に、地域民主主義という言葉がある。あまり聞かないが誰が言っているのか。民主主義に地域も国もない。
佐々木委員	僕も思った。
澁谷委員	あるのは直接民主主義と間接民主主義であって。
佐々木委員	議会に必要な議員数の考え方の2番目と3番目は、一定程度の人数が必要だということで、わりと似た意味合いになっている。2番目の、多様性・専門性の確保のところ、議員数は必要だがここでは討議するために必要だという意味と、3番目は委員会審査のために必要だと、それぞれ微妙に意味合いが違うのではないか。2番目の多様性・専門性の確保のところは、各階層、地域から選出された議員同士による討議ができる人数の確保が必要という表現が、地域民主主義にとって。討議できる人数が必要という意味合い。 3点目が、委員会の審議能力の発揮というのを。
野藤委員	出典を書いたら良いのかなと。議会側の議員が言っているのだと思われぬように、だいたいこういう流れという。
佐々木委員	3点目が、委員会の審議能力の発揮なのだが、討議できる委員会の人数の確保。委員会にも一定程度の人数が必要という説明があるので、討議でも議論でも審議でも良いのだが委員会の人数の確保。この3つの視点のほうに分かり易いのではないかな。
三浦委員長	①から③は特別委員会のほうでまとめられた文言なので、広報で触るものではないように思う。
下間次長	そう思って聞いたのだが、この委員会に任せるといった話になっている。
澁谷委員	それすごく疑問である。特別委員会に出しても、多様性と専門性の確保の中に、多様性と専門性がなぜ必要かは、政策提言をするためにあらゆる階層やいろんな人が必要なのである。政策提言という言葉が一個もない。特別委員会は現代の流れを理解していない。
下間次長	今から変えても大丈夫なのではないかと。
澁谷委員	変えても良いレベルでしか議論していないのか。ここは議論をもとに発表する場である。
下間次長	3月27日の特別委員会で案は作られて、これでいこうと決まって

いるようなので。

西川副委員長 各層から選出された委員の意見を聞いて変えれば良い。

野藤委員 結局、もともとどこがこれを言っているのか出典を。

三浦委員長 これは出典ではなくて特別委員会で決めたこと。

野藤委員 それなら特別委員会がこのようにしているとしないと、どこから出た案なのかという話になる。

三浦委員長 これは特別委員会の中で議論されたとしても、議会として市民の方々に。

澁谷委員 全協できちんと発表されてから議論していかないと、本当はここには出られないはず。これはもう浜田市議会の意見になってしまっている。あるいは全協までいかずとも、少なくとも議運に諮っていると。その経過がないまま出てきて、勝手に変えても良いと言われても困る。それに、最低でも議長団は確認しているかと言えば、いま副議長からいきなりきている。

佐々木委員 上の議会改革より下の定数の考え方にこれだけ意見が出るということは、これが上に来なければいけないのではないかと思うのだが。定数についてはまずここを見てください、そのために議会改革を行ってきましたと、そういう順番のほうがアピールするならそちらが良い。

下間次長 ②のところだと思う。とはいえ時間も迫っているので、文言を整理して議運や全協を開くような時間もないのではないかと思う。特別委員会で議論されて、特別委員会ではこれでと決まっているところもある。

三浦委員長 文言は特別委員会でOKとなっているのか。

西川副委員長 一応見てもらって、話をした。地域民主主義は確かにおかしいように思う。

下間次長 多少の文言整理は。

澁谷委員 西川委員は副委員長なのだろう。出してきておいて、おかしいように思うと言われることが、よく分からないのだが。

西川副委員長 経緯を言うと、そもそも上の段と下の段とがページにあった。下はアンケートのこと、上はそのアンケートを取るにあたり、議会改革のことを書くということで、前の次長がまとめられた文言があり、それをもとに私のほうで分かりやすく直した時に、この地域民主主義という言葉が入っていたのでそのまま使ってしまった。もう少し

議論の場を設ければ良かったのだが、どうでしょうか。

下間次長

②の文言整理をして。

西川副委員長

それで済むなら良いが、議運や全協と言われると。

澁谷委員

最低でも議長団の了解が要る。これは絶対条件だ。それがないまま出てきているのが。本当は議長団だけで良いわけではないが。これは常任委員会ではなく特別委員会の案なので。

笹田委員

僕は委員なので状況をはっきりお話すると、もともと大切なことは議員定数について人からアンケートをいただくことをメインに話して、そのためには議会報告会でまず正副議長が、こういった取組を行って来て、こういうことが必要だと説明することが必要だという話から始まっている。正副議長が話す内容については正副議長にお任せしようというところで、議会報告会を進めていきたい思いがあったが、それでは情報収集が少ないため議会だよりでもお願いしてみようかというところから始まった。その辺は正副議長の思いを入れて作成して、皆にアンケートをしていただくほうが良いのではないか、ということからこういうことになったので、その文言については正副議長がどのように決めたか分からないが、委員会で話をして、これでどうだろうかということで、広報にお願いした経緯がある。

ちなみにいま調べたのだが、地域民主主義という言葉はある。その辺も踏まえて。

澁谷委員

どういう意味か、地域民主主義とは。

笹田委員

ネットで調べてみてほしい。長々と書いてあるので。

澁谷委員

そのぐらい皆が認識してないレベルの言葉を使うのはどうなのか。調べなければ分からないような言葉など。

笹田委員

皆の意思統一を図ったものが出てくるかどうかは、要するに、澁谷委員が言われるなら議運だけでなく議会としての総意を求めるなら全協を開いて、自由討議でもやって作るしかないと思うのだが。遅くなるからできないかもしれないが。

佐々木委員

こういう表現に至った背景。議会だよりに載せる表現というのは、特に特別委員会で、こういう表現にしてくれといった議論はせずに、前次長にまとめてもらったものをこれに載せる、どうもそのような流れだったと思う。内容を議論する場は今までなかったもので、前次長もおそらく、前回の広報に乗った議長団それぞれの思いだとか、

あるいはいろいろ調べてまとめられたものを、正副委員長でチェックされたかどうか分からないが、こう表現されたので。ものがなかなかなかった、というのが今の流れではないか。

三浦委員長

私が思っているのは、この文言の中身について議会広報広聴委員会で議論して、修正することが正しいのか。この紙面については議員定数等議会改革推進特別委員会のほうにお願いしてさせていただいたことと、この中身については特別委員会で議論されていることなので、それを受け取る立場なので、ここで議論するのは委員会の所管外なのかと思う。そういう意味でどう取り扱えば良いのかと思うが、整理の仕方としてはそのように思う。

澁谷委員

少なくとも議長団と打合せしてもらって、それでまとめてもらおう。

佐々木委員

それでは、そのようにやる。

下間次長

それで一任ということで良いか。

三浦委員長

正副委員長で、議長団にご相談いただいたことをこちらで受けて、ここに文言を整理して載せる。

佐々木委員

確認で、いま出た意見は僕が言ったことと、それから澁谷委員が言われた政策提言という表現を盛り込んだらどうかということと。

三浦委員長

それと地域民主主義という言葉の取扱いをどうするか。

佐々木委員

地域民主主義だけ、どう扱うか。先ほど言われたように、なかなか馴染みがないと思うのだが、意味合いとしては確かに重要な意味があるのだと思う。せめてこれだけでも入れるかどうか。

澁谷委員

それも議長団に任せるしかない。

三浦委員長

はい、ではそのように。

澁谷委員

この考え方がないとアンケートができないということなのだろう。

三浦委員長

そういうことである。その考え方に基いてこのアンケートを実施するに至っている。

佐々木委員

委員会では、ただアンケートをお願いするにあたって市民の皆は議会のことを全く知らないなので、その中で議員定数はいくつが良いかと聞いても無謀な話。そうするといろいろな批判説をもとにした提案しか出てこないなので、せめて議会の必要性や最近の責任の重さだとか、流れをどこかで説明して、なおかついろいろな政策を議論するにはこういう中身が必要だということを多少でも分かってもらおうという表現をここに出すためにやるので。議会報告会では僕はそ

ういう話をしようと思っていた。議長も同じような内容だと思う。単に意見を聞くだけでは無謀なので、せめて何らかの判断基準を示していきたいので。

澁谷委員　　そこまで言えば類似都市との比較などがないと、市民も判断基準が分からないのではないか。

佐々木委員　　類似都市は類似都市で良いのだが、類似都市が同じような判断をしているかどうか分からないので、基準として最近の流れなどをきちんと説明すれば良いのだがその時間がないので、必要性、責任の重さというのを入れながら。

澁谷委員　　期日が迫っていて急がなければいけないからといって焦って進めたら、あまり良い結果にはならないので議長団は気をつけて。

佐々木委員　　もともとアンケート内容も、10年くらい前にやった内容と同じにしている、それはあまりにおかしいだろうという話で、せめて市民の皆に示して、アンケートにも工夫を凝らしてやるようにしている。

笹田委員　　先ほど言われたように、議会報告会で話をしようとしていた正副議長の意見を書けば良いと思う。地域民主主義が分からなければ入れなくても良いし、今までの歴史も長いので議会改革も含めて議会報告会で話そうとされていた内容で良いと思う。議長団がこうだというものを正副委員長に伝えて、それでやれば。皆で決めた議長団なので、僕はそれで良いと思う。

西川副委員長　　この文書を作ったのは私なのだが、もともと議長が言われた、削減ありきではないということから始まっている。議長団が議会報告会で話せる内容をおそらく前次長に伝えられて、次長がもともとの文章を作られたのだと思う。それを受け取って、一般的な内容をつけて書いたもので、そういう方向を確認させてもらって、それで良ければと思う。

佐々木委員　　多分そういう流れで、ついでに言うと先日のケーブルテレビの収録もこれに似たような内容で、それもおそらくこれをもとに原稿を作られたのだと思う。基本はこの形になると思う。ただ、先ほど言われたように地域民主主義とか、政策提言という言葉を入れるようなことになるのかなと思う。大きく変わることはない。

三浦委員　　それをベースに扱わせていただきたいと思うが、今の話を伺う中で、議会広報広聴委員会としての立場で1つ申し上げるならば、アンケートの中身を見直しているというのも議会改革の1つだと思う。

議論をしてくる中で、こういうことで見直しをして皆に改めて問いかけをするということがここにあったほうが、アンケートを取る意味合いみたいなものが伝わると私は思うのだが、これだと議会改革で何をしてきたかの事実だけが列挙されているので、なぜアンケートを取るかについては触れられていない。この中身はもちろんだが、なぜこの問いかけをするのかという点にも触れていると良いかなと思った。ただ、そのところは議長団とお話させていただき、正副委員長で預かってこちらでやらせていただく。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では下段のところは。

村武委員

下段も特別委員会で話し合った内容なのか。というのが、アンケートの受付期間なのだが、④のお知り合いの議員に提出というのが、あって良いのかどうかというのが。

西川副委員長

これは十分に話し合った。

村武委員

これで良いということだったのか。了解した。

下間次長

全議員にも事前に周知が必要である。ある程度固まったら、5月1日から広報を発行するので、それよりも前のところで。本当は議会報告会があるのでその打合せ等でお知らせができたかもしれないのだが、それがなくなると、こういうものを出すと皆に。

澁谷委員が言われたように、議運も全協も開いてない状況で、まずは議員にしっかりと周知を。

三浦委員長

これも含めて、対応は増えるので。そういうことを心構えしておかないと、いきなり渡されても皆さん困るだろうから。ではその対応は事務局にお願いする。

それとホームページなのだが、ここまで長いのは入れないはずなので、浜田市ホームページからくらしの情報で島根電子申請システムで良いのでは。URLを取って。そう思った。

15ページについてはそれでよろしいか。

(「はい」という声あり)

(以下、校正作業)

2. 議会報告会（地域井戸端会）の延期について

三浦委員長

事務局からお願いする。

近重書記

委員にはメールでお知らせしたが、新型コロナウイルス感染症防

止のために、当初予定していた議会報告会の延期とさせていただいた。延期時期については未定である。市議会ホームページとケーブルテレビの文字放送で、中止した旨を周知している。また職員向けにもアナウンスしている。見込みが立ち次第また計画するということになる。

三浦委員長

ご質問等はあるか。

(「なし」という声あり)

3. 行政視察の延期について

三浦委員長

事務局から。

近重書記

行政視察延期についても、5月末までは受入れも行く視察もなしと議長団の決定があったので、5月末に予定していた議会広報広聴委員会の視察も延期としている。また第一候補として予定していた岐阜県可児市議会についても、ホームページにて当面視察受け入れは見送らせていただくとして、時期は明記してなかったのが、候補に挙げられない状況であることをお知らせする。

三浦委員長

ご質問等があるか。

(「なし」という声あり)

4. その他

三浦委員長

その他、事務局から。

近重書記

4月1日の異動について議員各位にメールで、各委員会の担当を周知しているが、議会広報広聴委員会の担当書記が変更になる。今号は私が担当だが、4月下旬以降は引き継いで広報広聴を担当させようと思うので、変わらずよろしく願います。

2年間感謝する。引き続きよろしく願います。

三浦委員長

近重書記ありがとうございます。引き続きよろしく。

その他あるか。

(「なし」という声あり)

次回はいつにするか。

近重書記

報告会がなくなったので、普通なら個人一般質問の最終日あたりになるのだが。

三浦委員長

では一旦、次回は6月定例会議の一般質問最終日、19日に開催したい。よろしく願います。もしそれまでに協議すべき内容が出て

くれば、またご案内したいが、コロナのこともあるので極力連絡で済ませたい。

では次回は6月19日をお願いします。

以上で委員会を終了する。

[12時 01分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀